

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6	身体拘束の実例を体験したことのない職員が多く、具体的な行為やその弊害について繰り返し確認するだけの内容となっている。	職員が自分自身の日々のケアの内容を振り返り、『虐待に繋がる可能性のある芽』について意識をする機会を持ちたい。	グレーゾーンに該当する恐れのあるケアについて、意見交換する場を作る。 出た意見を元に、実際のケアの場面での対応方法の見直しを行う。 またスピーチロックに該当する可能性がある言葉についても同様に意見交換をする場を作り、言葉の選択や相手に与える印象について話し合い、見直しを行う。	24 か月
2	13	新しく入職した職員に対し、認知症や感染症対策、事故対策、個人情報保護等の研修を行っているが、指導する職員によって内容に差が見られる。 また、指導する側と指導される側の時間の調整が必要であり、限られた人員で運営している中では負担が大きい。	研修内容の統一化を図り、一定の質を確保できるようにしたい。 時間の調整等の負担を減らし、必要なときに研修の開催がしやすいようにしたい。 より事業所の実態に即した研修を行いたい。	職員が実施する研修の内容を動画で撮影して研修の資料として使用することで、必要な内容を漏らさずに伝えられるようにする。 研修の動画を撮りためていくことで、今後の指導する側の職員の負担を減らすと共に、既存の職員であっても必要に応じて直ぐにでも研修が受講できるようにする。 また自施設での研修の内容を撮影することで、より実態に即した研修となるよう工夫する。	24 か月
3	20	窓越しやオンラインの面会を行っているが、以前に比べると面会の回数が減っており、関係性の継続が難しくなっている。	どの代替え面会の方法も少しのデメリットがあり、選択が難しい。 以前と全く同じ方法での面会の継続は難しいが、色々な方法を活用し、少しでも安全に面会が継続できるようにしたい。	窓越しの面会は声が聞こえにくいことが問題となっているため、コミュニケーションを活用して会話が聞こえやすくなるようにする。 オンライン面会は認知症の方にとって理解が難しく、会話を成立させることは難しいが、顔や様子を見ることでご家族様の安心感となるように職員の声かけを工夫する。またご家族様にとって使いやすいシステムとなるよう、LINEを活用して行えるようにする。 玄関周辺のスペースを利用し、落ち着いて話せる面会スペースを確保する。	12 か月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。